



## 貝がらにあいた穴のなぞ

### - アクキガイの仲間 -

ちょうど1年前のアムスルだよりでチレナイガイという二枚貝を紹介しました(No.70)。よくブイなどにくっついて海岸に打ち上げられている貝です。今年の春先にもクシバルに打ち上げられていたのですが、まだ生きているものがあったので、研究所に持ち帰り、水槽で飼育していました。ところが、ある日そのうちの6個体の貝が死んでいました。しばらく観察していなかった水槽だったのですが、それでもそんなに弱っていたように思えず、それにほかの貝たちはまだ元気そうに生きていたので、なぜ死んでしまったのかすぐにはわかりませんでした。けれども、じっと考えているうちに、はっとその原因に気がつきました。今回は、この二枚貝の死んだ理由についてお話します。

気がついたのは、死んだ貝の殻を水槽

から取り出したときでした。せっかくなので標本か実験材料にしようと思って手のひらの上で調べてみると、貝がらに直径1mmくらいの丸い穴が開いていたのです(写真1)。残りの5個の貝がらを調べてみると、全部の貝がらに同じ穴が開いていました。それを見た

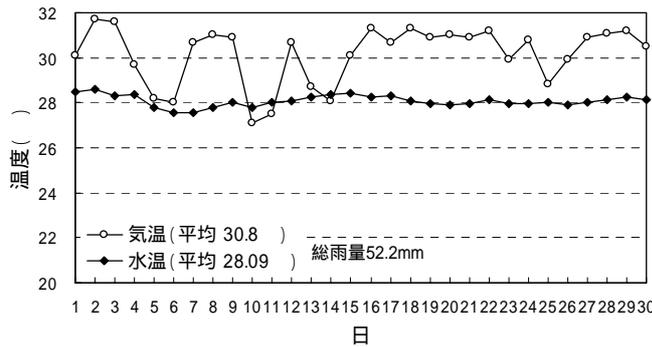


とき、自分の大失敗に気づいたのでした。その失敗とは、ガンゼキボラという巻貝をその水槽にうっかり入れてしまったことです。海での調査中にガンゼキボラを見つけ、調べたいことがあったので採集したのですが、忙しくてとてもすぐには調べられそうになかったので、手近かな水槽に入れたのです。ところが、すっかりあわてていたその水槽にチレナイガイが入れてあったことを忘れてしまっていました。そして、よりによってそこに入れられたガンゼキボラは、実は二枚貝を好んで食べる巻貝なのでした。ガンゼキボラにしてみれば、レストランに入ったようなものです。きっと矢つぎ早にチレナイガイを食べていったことでしょう。

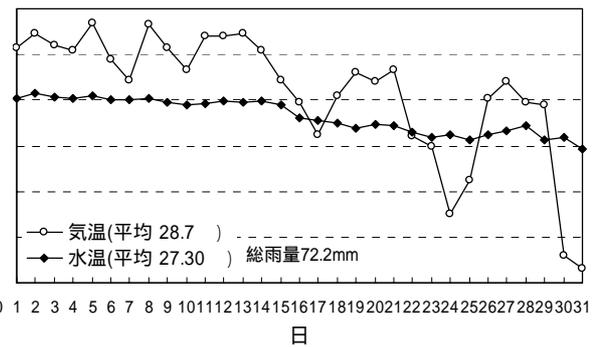
ガンゼキボラは、アクキガイ科の巻貝の一種です。アクキガイは、漢字では「悪鬼貝」と書きます。見るからにこわい名前ですが、その由来はアクキガイと

## 定点観測

2005年9月



2005年10月



いう貝がとげだらけで鬼を思わせるからという説と、もう一つ、動物を襲って食べる恐ろしい貝だからという説があります。ちなみに、サンゴを食べるシロレイシガイダマシもアクキガイ科の仲間です。アクキガイ科の貝には、ガンゼキボラ以外にも二枚貝を食べる種類がたくさんいますが、いったいどうやって食べるのでしょうか。

先ほどお話したように、食べられた貝がらには小さな穴が開いていました。もちろんこれは、もともとあいていたものではなく、ガンゼキボラがあけたものです。穴あけに使われるのは、「歯舌（しぜつ）」と呼ばれる体の部分です。これは、その字のとおり歯のようなギザギザのある舌で、アクキガイ科にかぎらず、ほかの巻貝にもあり、その形は食べるものによって違ってきます。たとえば、サザエなど海藻をけずり取って食べる種類の貝の歯舌は洗濯板や大根おろしのような形をしており、イモガイの仲間の歯舌はもりのようになっていて、これをエサとなる動物に打ちこんで捕らえます（アムスルだより No. 55）。アクキガイ科の歯舌は、言ってみると小さなヤスリです。細長い歯舌の上に、硬くて鋭い歯がずらりとならんでいます。これで、こすって二枚貝に穴をあけるのですが、貝がらはとても硬いので、アクキガイの仲間はもうひと工夫、歯舌でけずる前に酸を分泌して貝がらをやわらかくしてから穴をあ

け始めます。そして穴があくと、そこから細長い口をさし込み、中の肉を食べてしまいます。本当に器用なものです。これまで話を聞いたことは何度もあったのですが、アクキガイの仲間が穴をあけてエサを食べたのを実際に確認したのは初めてでした。チレニアイガイにはかわいそうなことをしましたが、こうしてみなさんにお話できたので、無駄死にせずにすんだわけです。

## 阿嘉島の海より

台風のためにずっと延期になっていたあか・げるま祭りが10月15日(土)に行われました。ただ残念なことに、今回も台風が接近したため、予定されていたスケジュールを変更して阿嘉島、慶留間島の出演者のみによるステージとなりました。会場では無料でバーベキューが振舞われ、舞台ではこのために一生懸命に練習を積んできた子供たちのかわいい琉舞やエイサーが披露されました。



毎年みんなが楽しみにしている恒例の花火こそなかったものの、島ならではの楽しい祭りだったのではないのでしょうか。